

北山用水を利用した小水力発電所建設に伴う地域環境整備事業

1. 補助事業の目的

市並びに用水組合の要望に基づき、発電所に隣接して P R 公園を整備し、歴史ある北山用水とそれを利用した水力発電所について説明看板等を設置し発電所見学に合わせた環境教育を推進する。

また、市の北山用水遊歩道整備構想と連携し、地域住民の憩いの場として活用できる広場にすることにより、地域の活性化に資することを目的とする。

2. 補助事業の概要

(1) 事業者名

東京発電株式会社

(2) 事業期間

当年度 令和元年 5 月 27 日 ～ 令和 2 年 1 月 27 日

全体事業 平成 30 年 7 月 12 日 ～ 令和 2 年 1 月 27 日

(3) 対象地域

静岡県富士宮市

(4) 対象地域の状況

富士宮市は、世界遺産となった富士山の西南麓に位置し、平安初期に造営された富士山本宮浅間大社（全国の浅間神社 1,300 余社の総本宮）の門前町として発展した町である。市内には、豊富な湧水によって養鱒場や水力発電所が数多く設置されており、1,000 キロワット以下の小水力発電所は 12 箇所、出力合計 6,350 キロワットと箇所数、出力とも「日本の小水力発電のまち」になっている。

市内を流れる芝川は、市北部の湧水群に源を発し、流下して富士川に合流し駿河湾に注ぐ。発電所設置予定の北山用水は、芝川から取水し農業用、防火用、生活用の水及び上水道の水源として使用されている。この北山用水は、天正 10 年(1582 年)に徳川家康が開削を命じたとされ、市にとって歴史のある極めて貴重な用水となっている。用水には湧水が流れ込んでいるため、普通河川扱いとなっており、河川管理者は市長であり、委託を受けた北山用水運営協力委員会が水運用を行っている。

(5) 対象発電所

水系・河川名 富士川水系芝川から取水した北山用水(普通河川)

発電所名 家康公用水発電所

事業者 東京発電株式会社

出力 158kW

3. これまでの取り組み状況と課題

水力発電所の開発計画について、4 年間にわたり富士宮市並びに用水組合、利水者への説明、協議を重ねてきた。その中で、地域が受けるメリットという視点からは課題が提起された。

市長からは「新たに水力発電に利用するならば、地域貢献、特に環境教育の場として活用できる設備にしてほしいこと」を要望された。

これを受けて市と地域貢献策等について協議を進めてきた。その結果

- ① 隣接する水力発電所の見学と合わせて、特に子供たちが北山用水の歴史・大切さ、その水を利用した水力発電の仕組み・大切さを知る教育の場にしていく。

- ② 市の北山用水遊歩道整備構想に連携して、地域住民の憩いの広場、発電所見学者や散策者の休憩スペースとして活用できる場にしていく。

- ③ 将来的には、災害時に携帯電話やスマートフォンを充電できる設備の設置について検討していく。

4. 実施概要

(1) P R 公園の造成整備

発電所隣接地に発電所見学者や用水散策者の休憩の場、地域住民の憩いの場として、P R 公園を造成整備しました。(テーブルベンチ設置:2 セット、水飲み設置:1 箇所、植樹:10 本)

(2) 説明看板の移設

平成 30 年度に設置した説明看板を、取水口本設位置並びに P R 公園に移設しました。(説明看板移設:10 枚(平成 30 年度仮設置を取水設備及び P R 公園に移設))

P R 公園(全景)



公園利用の状況(P R 公園)



北山用水・発電所の説明看板 (P R 公園設置)



北山用水・発電所の説明看板 (取水設備設置)



5. 得られた効果

令和元年 12 月 18 日に P R 公園の整備が完了し、令和 2 年 1 月の富士宮市ホームページ「日本一小水力発電のまち 富士宮」に家康公用水発電所の紹介や、富士宮の歴史をわかりやすく紹介する学習用パンフレット「ふじのみや探検(富士宮市立中央図書館発行)」に北山用水・発電所の紹介掲示板と公園の設置が紹介されました。発電所の巡回時には、公園を利用する人を見受けられるようになりました。

今後は、北山用水の歴史と再生可能エネルギーを生み出す水力発電の環境教育や地域の憩いの場に活用され、地域に溶け込み親しまれる水力発電所となることが期待されます。